

群 教 セ	E04 - 06
	平 14.205集

# 子どもが変わる校内研修

## - 校内研修診断とステップアップシートの活用を通して -

長期研修員 町田 明彦  
長期研修員 辻 司

### 《研究の概要》

本研究は、校内研修の活性化を図り、児童生徒のよりよい変容を目指すための「校内研修診断」と「ステップアップシート」について、その有効性を探るものである。具体的には、校内研修診断ソフト「診断くん2003」と「支援くん2003」を活用することで、研修の進捗状況に応じた評価を可能にし、評価から改善を生み出す、校内研修の「Plan(計画) - Do(実施) - Check(評価) - Action(改善)」マネジメントサイクルの循環を促す。  
【キーワード：教職員研修 校内研修 評価 小中学校】

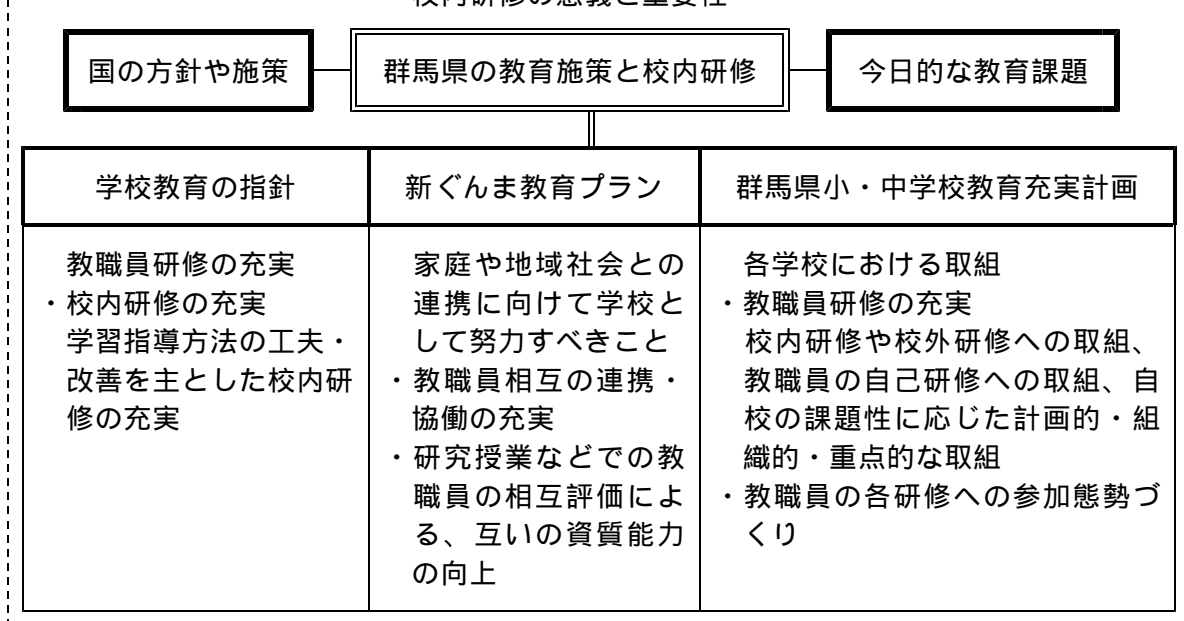
### はじめに

今日の変化の激しい社会にあって、学校教育が抱える教育実践上の問題は複雑化の様相を見せている。併せて、学校では新学習指導要領が実施され、完全週五日制が始まり、教育内容の厳選や目標に準拠した評価の導入に伴う授業の質的な変換が求められている。こうした状況の中で、児童生徒に基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を育成することが、今学校教育の大きな課題となっている。

この課題を解決するために、校内研修が果たす役割は大きい。それは、校内研修が、学校課題と深いかかわりを持ち、学校教育目標の具現化に向けて実施される教育活動の中核をなすものだからである。

この意味から、教師は校内研修の意義と重要性を自覚し、よりよい子どもの成長を願いながら自校の教育課題の解決に取り組むことが大切であり、教師一人一人が課題の解決を通じて自らの資質の向上を目指していくことが必要である。

### 校内研修の意義と重要性



## 研究の領域と校内研修改善の視点

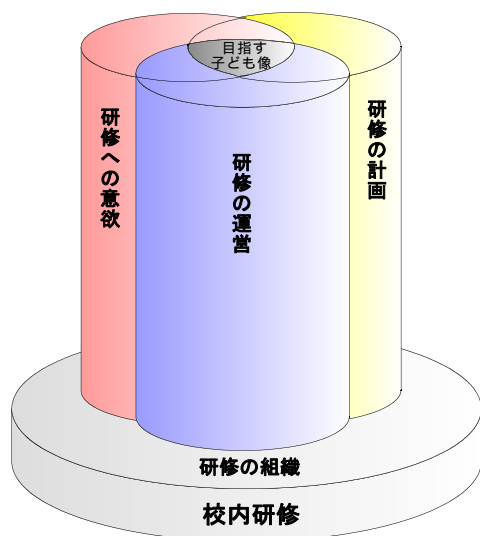


図1 目指す子ども像の視点に立った校内研修

校内研修は様々な要素から構成されているが、本研究では、図1のように「研修の組織」「研修への意欲」「研修の運営」「研修の計画」という四つの要素からとらえ、それぞれの要素が、互いにかかわり合いながら「目指す子ども像」に迫っていくものと考えた。本研究では、これらの四つの要素のうち「研修の運営」にかかわる内容を研究の領域とし、校内研修の評価の改善に向けて研究を進めることにした。

研究に当たっては、まず、校内研修の現状と課題を把握するため、県内の小・中・特殊教育諸学校 106 校の校内研修主任を対象にアンケートを実施した。結果、次のような現状と課題が明らかになった。

### 校内研修のアンケート結果から

- 1 校内研修の評価とその活用に関して  
現状 校内研修の評価は、ほとんどの学校で実施されされている。回数は、年度末に1回、学校評価の一部として実施している学校が多い。  
課題 年度末に1回だけの評価では、成果や課題は年度内の実践に生かされにくい。
- 2 校内研修の評価の重点と「目指す子ども像」に関して  
現状 校内研修の評価の重点を子どもの変容に置いている学校が多いにもかかわらず校内研修の「目指す子ども像」を設定している学校は全体の3割程度、学習過程の「目指す子ども像」を設定している学校は、1割程度と少ない。  
課題 具体的な「目指す子ども像」が設定されていない学校が多く、子どもの変容から授業実践を振り返ることが難しい。
- 3 校内研修のPDSサイクルの循環に関して  
現状 校内研修の評価を年間に1回だけ実施している学校よりも複数回実施している学校の方が研修のサイクルがうまく循環している。  
課題 研修のサイクルの循環を妨げているステップは See にかかわるステップで、評価で明らかになった成果や課題が次のサイクルにフィードバックされにくい。  
詳細については、資料編の資料1「校内研修にかかわる調査」を参照のこと。

これらの校内研修の現状と課題を受けて、本研究では、校内研修の改善の視点を以下の3点に絞って、具体的な方策について提言することにした。

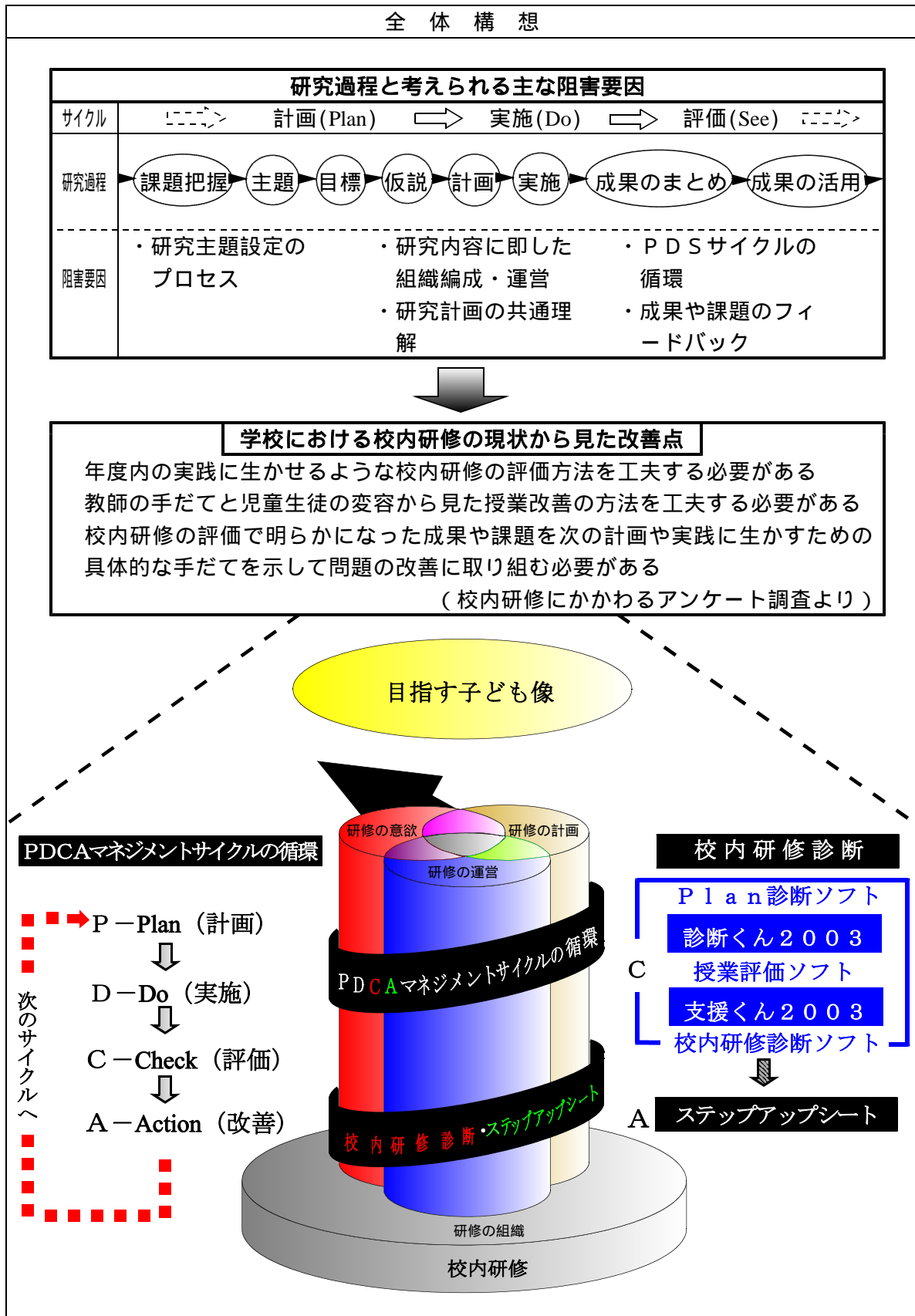
### 校内研修の改善の視点

校内研修の進捗状況に応じて実施できる校内研修評価  
教師の手だてと子どもの変容に視点を当てた授業改善の方法  
校内研修の研修サイクルを循環させるための基本的な考え方と手だて

## 研究のねらい

校内研修診断とステップアップシートを活用して、研修の成果や課題を教育実践にフィードバックさせることで、校内研修のPDCAマネジメントサイクルの循環を図り、児童生徒のよりよい変容を目指す。

1 研究の構想



## 2 校内研修の改善のための方策

### (1) 校内研修の進捗状況に応じた校内研修評価

校内研修の全体像をとらえて、成果や課題を次の教育実践に生かしていくには、年度末の評価に加え、研究期間の中で研修の進捗状況に応じて評価を行い、自らの実践を振り返り、新たな目標や改善の手だてを考えながら次の実践に取り組むことが必要である。その流れを表したのが下の図2である。

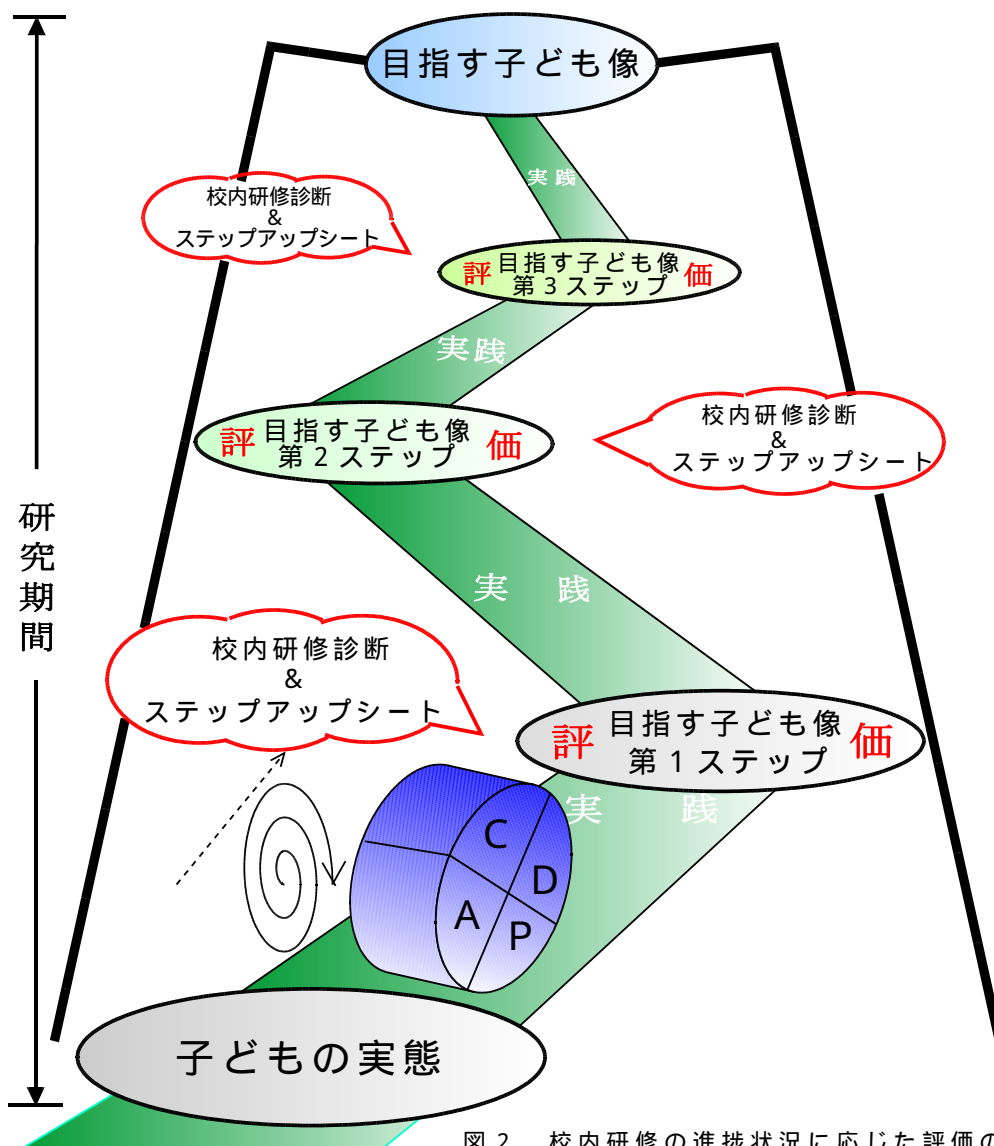


図2 校内研修の進捗状況に応じた評価の例

しかし、進捗状況に応じた校内研修評価を実施している学校は極めて少ないことがアンケートから明らかになっている。この理由の一つに、校内研修の評価に当たって、準備や集計に多くの手間や時間がかかるという実施上の問題点があると思われる。そこで、本研究では、校内研修の評価にかかる時間的な負担を軽減し、各学校で手軽に利用でき、評価結果をビジュアルに表示することができるような校内研修診断ソフトを作成することにした。それがPlan診断用ソフト「診断くん2003」である。

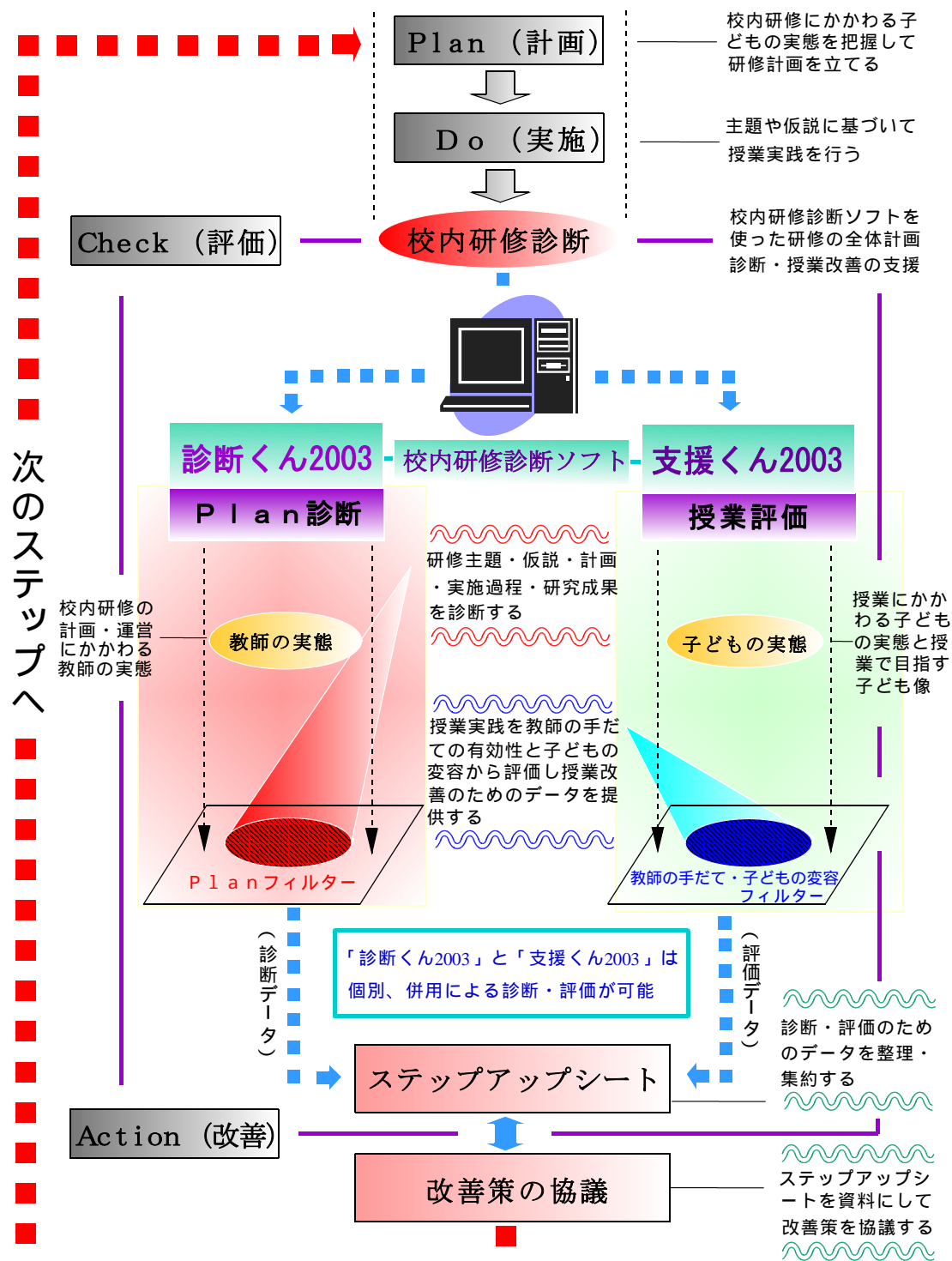


図3 校内研修の循環と校内研修診断

図3は、校内研修の循環サイクルの中での校内研修診断ソフトの役割を表したものである。校内研修診断ソフト「診断くん2003」は、校内研修の全体像について進捗状況に応じた評価を可能にするもので、これを使ってPLan診断を実施することによって、校内研修の節目ごとに成果や問題点を短時間で診断することができる。

Plan診断とは、校内研修の全体計画・運営にかかわる実態を「PLanフィルター」(資料1)を通して診断し、成果や課題を明らかにした上で、改善に向けて視点を絞り込んでいくものであり、次のような手順で実施される。

- 「診断くん2003」によるPLan診断の手順
- 1 校内研修の全体の流れを「研修主題の設定と妥当性」「仮説の設定と妥当性」「研究組織・計画の妥当性」「研究実施過程の妥当性」「研究成果とその活用の妥当性」の5領域に沿って教師が自己評価する。(「PLanフィルター」)
  - 2 教師の自己評価の個別データをシートに入力する。
  - 3 入力されたデータは、一覧表にまとめられる他にレーダーチャートなどによってビジュアルに表示される。
  - 4 整理されたデータの中から必要なデータを選んでプリントアウトし、各種会議の資料とする。

(資料1) Plan フィルター (部分)

<b>Planフィルター</b> (Plan診断 アンケート用紙)				
<p>このフィルターは、校内研修の全体の流れ(計画(Plan)・実施(Do)・評価(See))について、改善点を把握し、今後の研修の充実を図る資料を作成するためのアンケートです。本校の校内研修の現状について、その過程ごとにいくつかの観点から評価します。現在あなたが感じているままにお答えください。</p> <p>(記入の仕方)</p> <p>           評価尺度 5…その通りである            4…どちらかといえばその通りである            3…どちらともいえない            2…どちらかといえばその通りではない            1…その通りではない         </p>				
過程	評価単位	評価の観点	評価尺度	意見
研修主題	研修主題の設定と妥当性	1 子どもの実態を把握した上で、研修主題が設定されている。	5 4 3 2 1	
		2 教育の今日的課題をふまえて研修主題が決定されている。	5 4 3 2 1	
		3 学校の教育目標や学校の指導の重点とのつながりを明確にして、研修主題が決定されている。	5 4 3 2 1	
		4 研修主題を決定する過程において、教職員一人一人の意見が反映されるようになっている。	5 4 3 2 1	
		5 研究期間や組織の実態を考慮した適切な主題になっている。	5 4 3 2 1	
		6 研修主題について、全教職員が共通理解を図れるような工夫がなされている。	5 4 3 2 1	
		7 実践上の必要性・緊急性をふまえた意欲のもてる研修主題になっている。	5 4 3 2 1	
		8 研修主題は、具体的な指導との関連が明確に示されている。	5 4 3 2 1	

「診断くん2003」の詳細については、本研究の資料ページを参照のこと



(3) 校内研修の研修サイクルを循環させるための基本的な考え方と手だて

校内研修は、PDSマネジメントサイクルの循環によって、研修の蓄積・発展が図られる。しかし、アンケートの「校内研修の評価とその活用」の結果をしてみると、校内研修の成果や課題が日常の教育実践に十分生かされているとは言えない。

この理由の一つとして考えられるのが、アンケートの結果にもあるように、校内研修のPDSマネジメントサイクルのS（評価）からP（計画）へのステップの循環である。特に、年間に1回だけ校内研修の評価を行っている学校では、研修の成果や課題が明らかになっても、具体的な改善策が検討されなかったり、改善策を協議するために必要な資料が少ないといった状況が推察できる。そこで、次のような考え方と具体的な手だてにより、改善を図ることにした。

ア 校内研修の「PDSマネジメントサイクル」から「PDCAマネジメントサイクル」へ

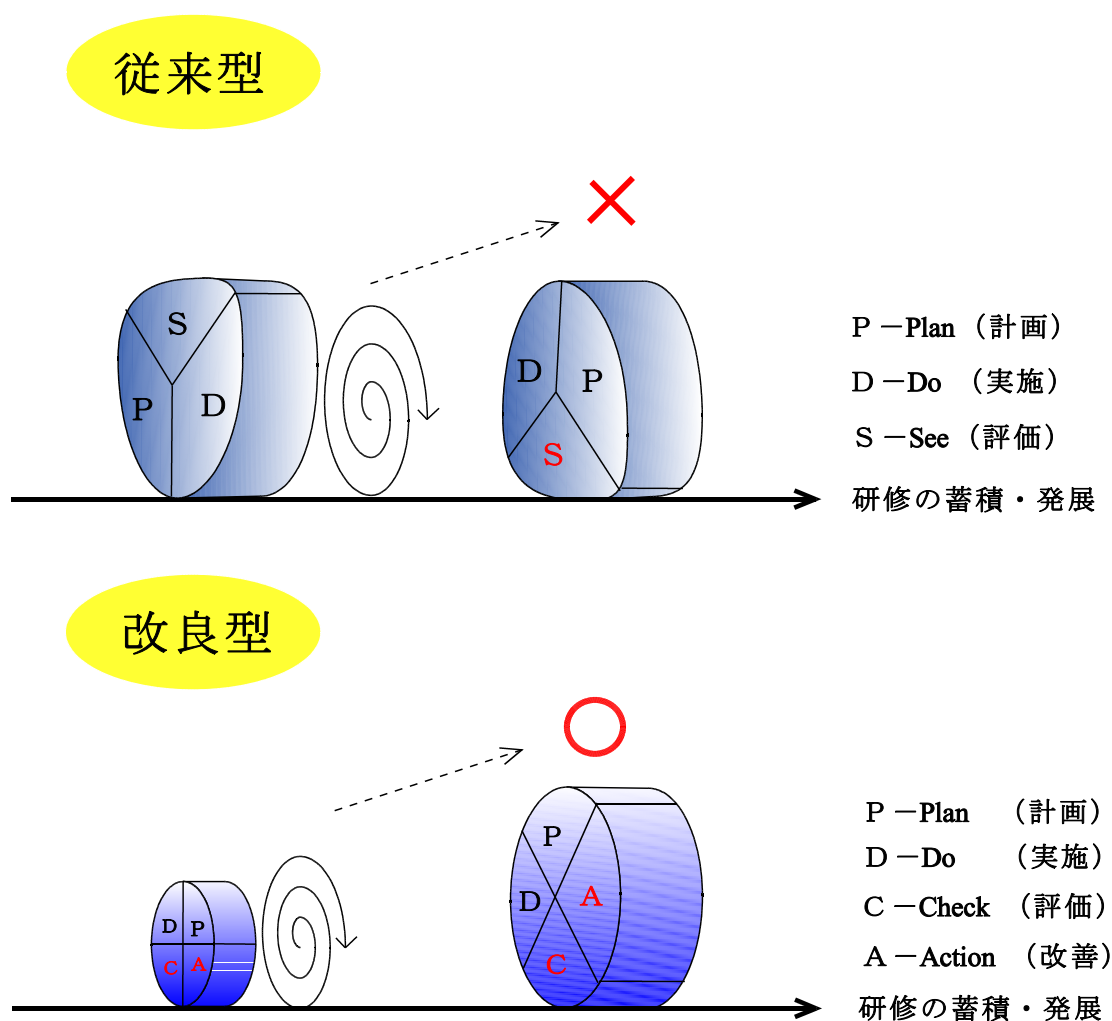


図4 PDCAマネジメントサイクルの循環（概念図）

まず、基本的な考え方として、本研究では、「目標による管理」という企業経営の手法を取り入れた校内研修のマネジメントサイクルを提言することにした。図3、4にある PPlan（計画） - Do（実施） - Check（評価） - Action（改善）マネジメントサイクルがそれである。（詳細については、資料編の資料2『「目標による管理」の校内研修への応用』を参照のこと）

このPDCAマネジメントサイクルでは、従来のPDSマネジメントサイクルの See（評価）のステップを、Check（評価） - Action（改善）のステップに改めた。これは、従来、評価のた



めの評価で終わりがちだった See（評価）のステップを見直し、「評価」から「改善」を生み出すステップを校内研修のマネジメントサイクルに位置付けようとする試みである。

See（評価）のステップを Check（評価） - Action（改善）のステップに改めることにより、校内研修診断によって明らかになった研修の成果や課題は、具体的な改善の方策とともに職員一人一人に意識付けられ、次期の研修計画や教育実践にフィードバックされることになる。このことを弾みにして、図4の改良型のように研修のサイクルは、次のサイクルへと循環を始め、研修の蓄積・発展が図れるものとする。

イ Check（評価） - Action（改善）のステップとステップアップシートの役割

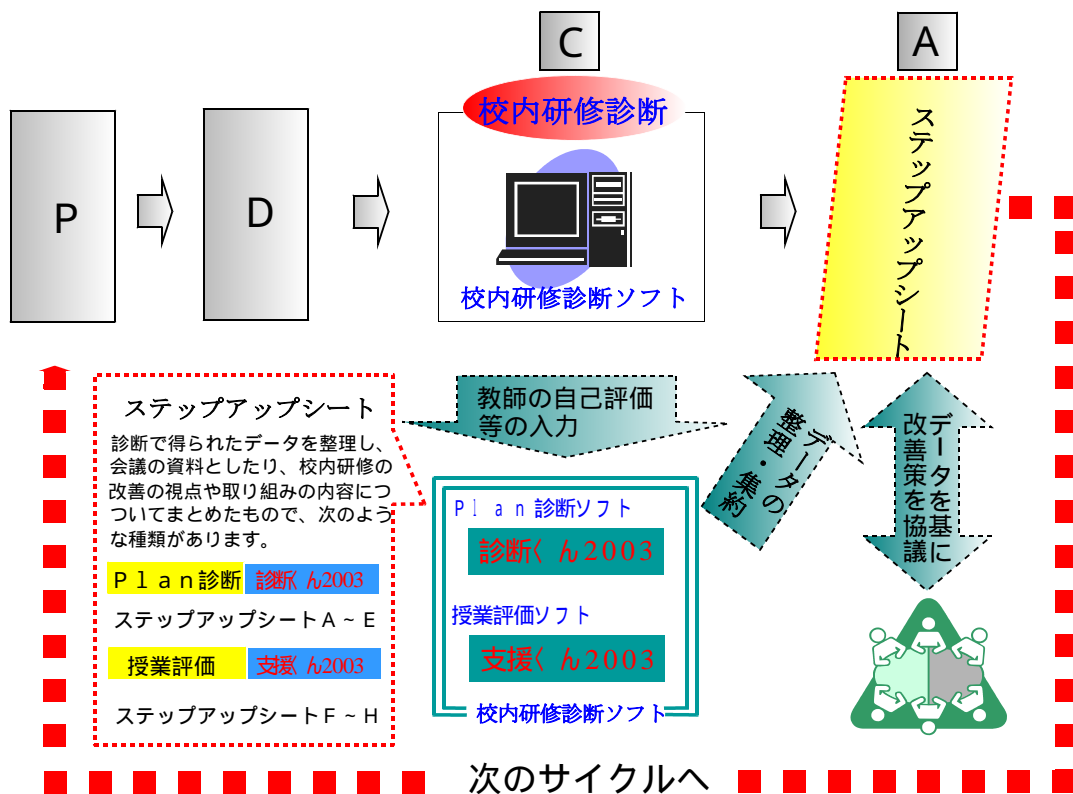


図5 PDCAマネジメントサイクルの循環とステップアップシート

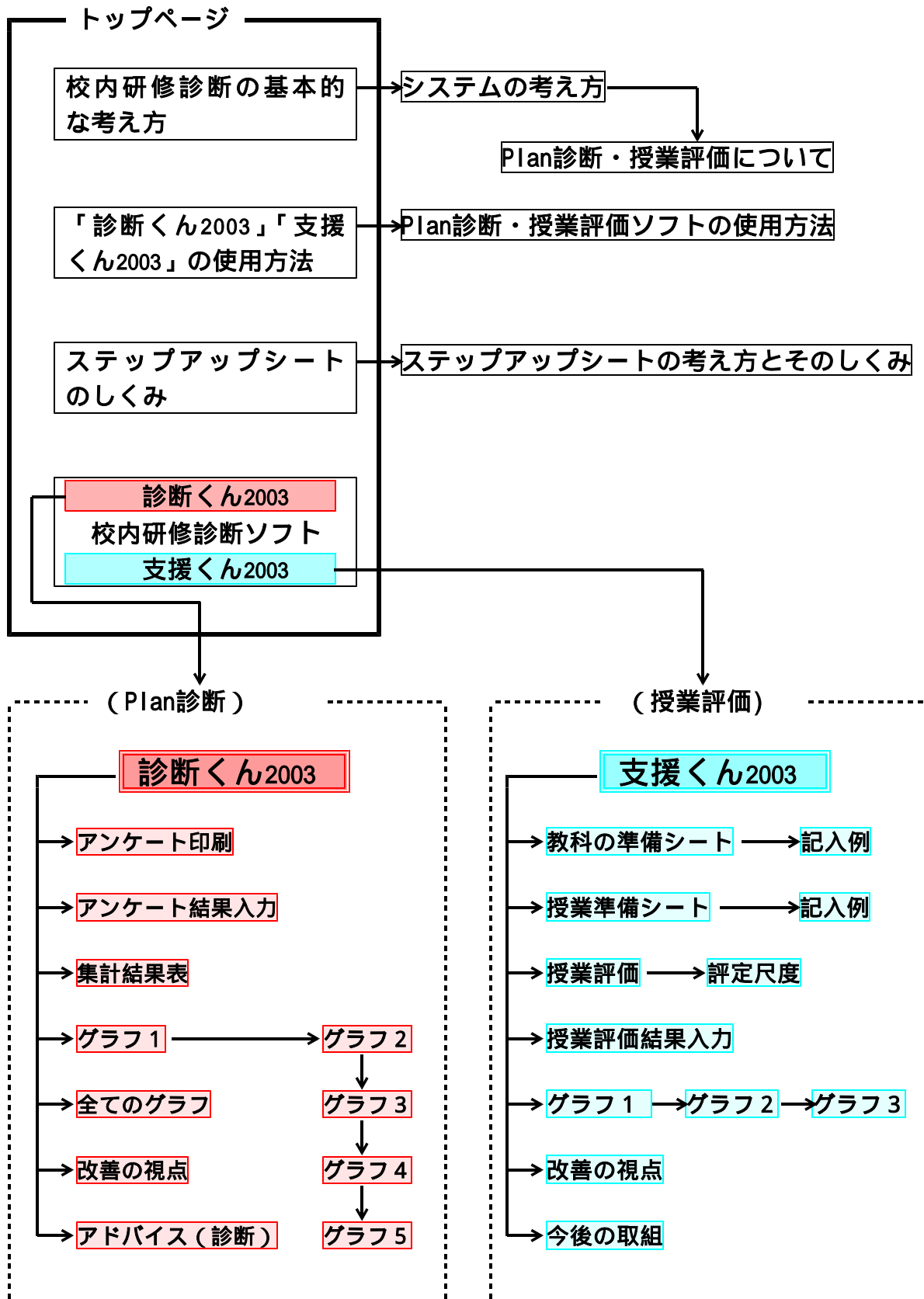
具体的な手だてとしては、Check（評価）のステップに前述の校内研修診断ソフト「診断くん2003」と「支援くん2003」を、Action（改善）のステップにはステップアップシートを位置付けた。

ステップアップシートとは、図5にあるように「診断くん2003」や「支援くん2003」に入力されたデータを基に作成される各種のシートのことであり、これらのソフトと連動している。このステップアップシートを活用することにより、自校の校内研修の成果や課題が焦点化され、次の実践で何を目標にして、校内研修のどこを改善すべきかが職員に共通理解されることで、研修に継続性が生まれ、評価だけにとどまらない、改善へ向けての研修のサイクルが動き出すものとする。

ステップアップシートの詳細については、本研究の資料ページを参照のこと

校内研修の改善に向けた方策の試行

1 校内研修診断ソフト「診断くん2003」「支援くん2003」の構成図



## 2 研究の方策の試行

校内研修改善の具体的な方策である「Plan診断(診断くん2003)」「授業評価(支援くん2003)」及びそこから生み出される「ステップアップシート」の有効性や実施上の留意点を探るため、試行をおこなった。試行にあたっては、これらの具体的な方策を小学校2校、中学校2校の計4校において研修の中に組み込む形で実施し、各学校の研修の推進状況に応じた活用を依頼した。

## 3 試行例

### (1) 「診断くん2003」の試行例

#### ア 「Plan」診断とステップアップシートを活用した校内研修の改善の試行例

##### A 中学校の校内研修の概要

###### 研修主題

他との関わりを深め、「生きる力」を身に付けていく生徒の育成  
教科指導の改善を通して

A中学校では、新教育課程完全実施にともない、生きて働く基礎学力の向上を目指して、各教科の授業改善を中心に校内研修を進めているところである。各教科部会では、研修主題を受けて、教科ごとのテーマを設定し、指導方法の改善に向けて具体的な手だての検討や指導案検討会、研究授業等の実践を行うことにより、「生きる力」の育成につながる教科指導の充実に努めている。

###### 試行の概要

校内研修の進捗状況に応じてその運営面をチェックし、改善を図るため、研修が軌道に乗り始める1学期半ばと、研究授業などの授業実践が行われた後の2学期末の2回「診断くん2003」による校内研修の全体診断「Plan診断」を行った。さらに診断結果やステップアップシートを活用しながら、研修推進委員会において今後の研修の推進について話し合いを行った。

校内研修全体診断「Plan診断」の実施 平成14年6月、11月

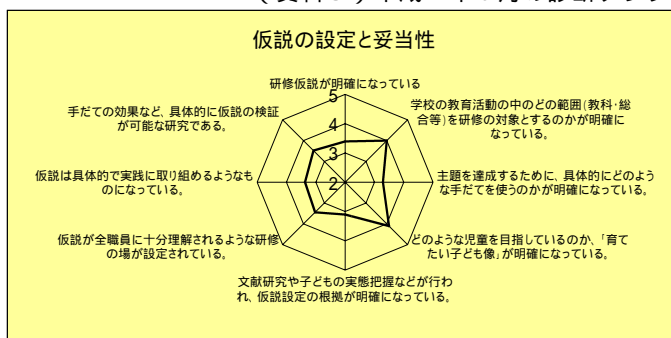
診断結果を受けての校内研修推進委員会の実施 平成14年6月、11月

##### 「Plan診断」とステップアップシートを活用した校内研修の改善について

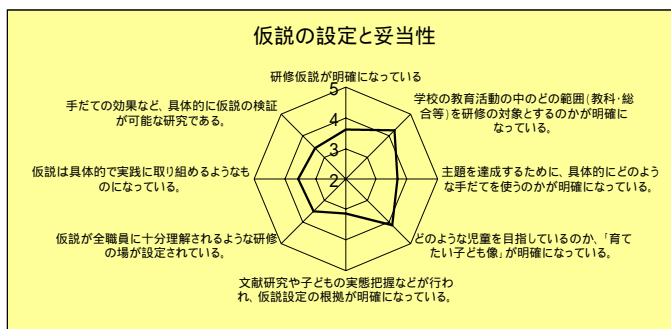
6月の時点で、研修の主題や仮説等についての共通理解の状況や、今後の研修の推進にあたっての問題点を把握するため、「Plan診断」を行った。その結果、五つに分かれている領域の一つである「仮説の設定の妥当性」の診断については、資料3のようなグラフが表示された。目指す子ども像や研究の対象とする領域に対する共通理解に比べて、研究仮説の理解や主題を達成するための具体的な手だてについての理解が不十分であることが分かった。

そこで、研修推進委員会では、研究仮説を再検討し、分かりやすい文章に書き改めるとともに、各教科部会に対して、授業改善の方法・手だての具体化と検証場面・

(資料3)平成14年6月の診断グラフ



(資料4)平成14年11月の診断グラフ



方法の明確化を促すこととした。

その結果、11月の2回目の診断時には、同じ診断領域について、資料4のようなグラフが表示された。推進委員会の働き掛けが、徐々にではあるが効果をあげていることがグラフからも見て取れた。

11月の第2回の診断結果を受けて、研修推進委員会では、ステップアップシートを資料5のようにまとめ、3学期の研修及び来年度の研修に生かすこととした。

A中学校での試行を振り返って研修が始まって間もない時期に「Plan診断」を実施することは、推進状況を的確に把握すると同時に、いち早く改善策を打ち出し、研修の充実を図ることができると思われる。A中学校の場合、診断結果を研修推進委員会で検討し、推進委員自身が把握している研修の実態と照らし合わせることで、より実態に即した改善が行われたものと思われる。また、2回目の診断は改善策の効果を見ることができるとともに、さらなる改善点や今後の方向性を知るうえでも有効であった。

また、2学期後半の診断は、来年度の課題をつかむことにもつながることが分かった。アンケート印刷から配付、回収、結果入力、結果印刷にかかった時間は、A中学校の場合約1時間であった。

(資料5) ステップアップシートの例

校内研修の改善の視点	
<b>1 研修主題の設定とその妥当性</b>	生徒や指導の実態、今日的課題等を踏まえて、研修主題を設定することができている。さらに、来年度は、主題を決定する過程において、十分な話し合いの場を設定し、教職員一人一人が納得した上で研修に取り組みめるよう共通理解を図る必要がある。
<b>2 仮説の設定とその妥当性</b>	本年度は研修仮説を明確にする時期が遅かった。どのような根拠で仮説を設定し、どのように検証を進めていくのか、早い段階で明らかにしていかななくてはならない。
<b>3 研修組織・計画の妥当性</b>	学校全体の行事計画の中に研修日が設定されており、計画的に研修時間を確保することができている。研修の成果を次の教育活動にどのように生かしていくか、具体的な方法を明確にしていく必要がある。
<b>4 研究推進過程の妥当性</b>	各教科で研究授業を実施することにより、生徒の実態に即して手だてやその成果について検討している。研修推進に当たっては、どのようなデータをどのような方法で収集して仮説を検証するのか、その手順を明らかにしておく必要がある。また、文献研究や先進校の視察等も研修計画に位置付けていきたい。
<b>5 研究の成果とその活用の妥当性</b>	研修の結果、生徒のどんな能力がどのくらい変容したのかを評価する規準や方法をあらかじめ設定しておく。年度末に、本年度の研修のまとめとして研究紀要(実践記録集)を作成する。実践内容を具体的に記載し、成果と課題を明らかにするとともに、今後の教育活動に生かしていく。

イ Plan診断の試行例 B小学校

「診断くん2003」

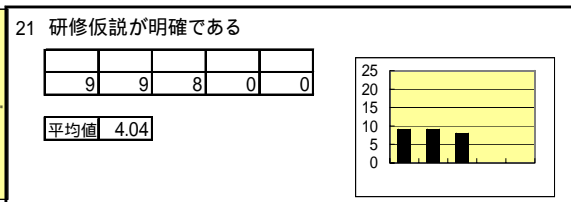
を使って同じような実践を行ったB小学校においても、資料6から資料7へと、グラフの変化を読み取ることができた。

7月の診断の時点では、研究の対象となる領域の評価だけが他と比べて高い状態であったが、11月では、「仮説」や「手だて」についても共

(資料6) 平成14年7月



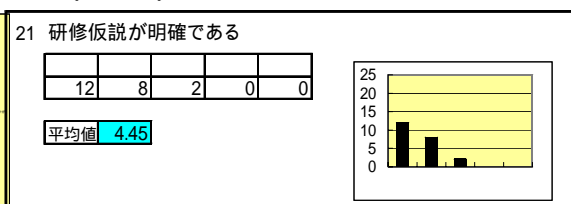
(資料8) 平成14年7月における研修の5段階評価の一部



(資料7) 平成14年11月



(資料9) 平成14年11月における研修の5段階評価の一部



通理解が図れてきていることが分かった。

また、資料8と資料9との比較からも分かるように、個々の職員の研修に対する意識が望ましい方向へと変化してきていることも分かった。こうした診断を進捗状況に応じて適切に実施すれば、研修の成果や課題を的確に把握することが可能であることが明らかになった。また、研修の進むべき方向が明確になり、適切な改善策が考えやすくなることで、研修推進上の障害要因をできるだけ早く取り除くことができると考えられる。

なお、今回「Plan診断(診断くん2003)」の試行をお願いした4校の研修主任の感想を以下にまとめた。

小学校研修主任	大変手軽にアンケートが実施でき、グラフ化されるので、とてもよいと思います。どのような点を改善していったらよいか一目で分かります。
小学校研修主任	「Plan診断」は、前回の反省をもとに研修を進めて行けたので役立ちました。研修を推進する者にとっては、有難いソフトだと思います。
中学校研修主任	来年度、「Plan診断」は、年間を通して使いたいと思います。
中学校研修主任	表やグラフで分かりやすく表示され、全職員の考えを把握するのに役立ちました。本校の校内研修の改善点が明確になり今後の参考になります。

## (2) 「支援くん2003」の試行例

### ア 授業評価を活用した授業改善の試行例 C 小学校

#### C 小学校の校内研修の概要

##### 研修主題

気付き、考え、活動する子の育成

生活科・総合的な学習を通して

C 小学校では、特色ある学校を意識した「総合的な学習の時間」を中心に、校区の地域性や児童の実態に即した単元を構想し、支援や評価のしかたを工夫することで、児童が身近な課題に気付き、課題追究のために自ら考え、進んで活動するようになることを実践を通して明らかにしようと努めている。

##### 試行の概要

校内研修主題を受けて実施された授業実践において、その手だての有効性や子どもの変容を見取り、よりよい授業に向けて改善を図るため、「支援くん2003」による授業評価を行った。

ここでは、中学年部会の実践を例とする。

平成14年11月～12月

(ア) 中学年部会：中学年の具体的な研修目標及び手だて等の確認

(イ) 中学年部会：指導案検討  
評価準備シート作成

(資料10)

(資料10) 授業の前に作成する「評価準備シート」

授業の評価をしてみましょう			
教師の手だてと子どもの変容から授業を振り返るための「評価準備シート」			
評価対象となる学年または教科・領域を記入してください			
学年	3年生	教科 領域	総合的な学習の時間
		1単位時間	1単元など
		診断期間	個人にチャレンジ(20)
「目指す子ども像」は明確ですか			
<small>今回の授業実践のもとになる研修主題を記入してください (複数ある場合、今回の授業と関わりが深く、最も重点をおきたい目標を設定してください) (なければ空欄にしてください)</small>			
学校全体の研修主題			
気付き、考え、活動する子の育成			
学年または教科の研修主題			
自分の願いや思いを大切に、友達と協力して楽しく学習する児童の育成			
<small>今回の授業のねらいと校内研修の主題の関わりが分かるように、目指す子ども像を具体的に記入してください (複数ある場合には最も重点をおきたいものを記入してください)</small>			
<small>見学や模擬体験を通して主体的に関わる活動を行い、自分なりの目標をまとめることができる児童の育成</small>			
子どもの変容を促す具体的な手だては用意されていますか			
<small>子どもの変容を促すために記入する手だても記入してください (3つ以上ある場合には、重点をおきたいものを3つ以内に絞ってください)</small>			
手だて	(つかむ)地域の人々の職業に関心を持つために、自分自身で名人を観る活動を行う。		
手だて	(追究する1)必要な情報を得るための方法を考え体験させる。		
手だて	(追究する2)学校放送を利用し、まとめ方を整理させる。		
子どもの変容や手だての有効性をどのようにして評価しますか			
<small>手だての有効性や子どもの変容を見る具体的な評価の観点や方法を記入してください</small>			
手だて	の	評価の	観点
手だて	の	評価の	方法
手だて	の	評価の	観点
手だて	の	評価の	方法
手だて	の	評価の	観点
手だて	の	評価の	方法

- (ウ) 代表授業：教師の手だて・子どもの変容フィルターの活用
- (I) 学年主任：結果入力と結果表示
- (オ) 中学年部会：今後の授業改善に向けての検討会

「授業評価」について

授業実践にあたり、中学年部会において、中学年としての研修の目標やそれを達成するための具体的な手だてを確認した。これは、自分たちが子どものよりよい変容を目指して、どのような手だてを投入しようとしているのかを吟味するためである。また、こうした作業の過程で、学年内において授業に対する互いの考えを出し合い、「評価準備シート」が作成された。このシートの内容は、資料11にあるような「フィルター」に自動的に反映され、これを参観者全員が手にして、授業実践に臨んだ。こうすることで、何を明らかにするために研修の一環として授業が行われているのかを共通理解することができた。さらに「フィルター」に記入される一人一人の授業の評価を集計し、グラフ化することで、今回の授業における手だての有効性や子どもの変容、評価の方法等について成果と課題が分かるようにした。資料12のグラフは今回の授業の評価の一部であるが、課題をつかむ段階での子どもの変容をどのようにとらえ、どんな方法で評価していくのかという点について今後検討していく必要があることを示している。

Ｃ小学校での試行を振り返って

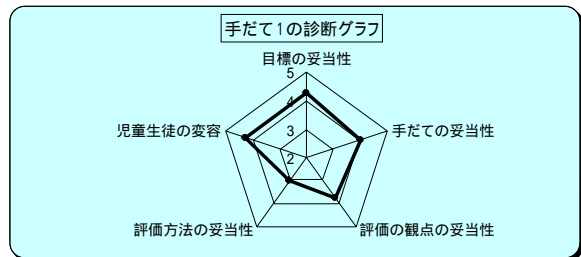
授業の前に中学年部会として「準備シート」を作成したことで、研修主題が学年に応じてより具体化され、手だてやその評価についても共通理解を図ることができた。また、研修目標を受けた授業実践においては、「評価準備シート」を作成し、それをもとに授業を検証することで、目指す子ども像に向けて手だては妥当であるかどうか、また、子どもの変容をどのように評価していけばよいかなど、授業改善の視点がより明確になることが分かった。学年等で授業実践を行う際、学年での取組が子どもたちのよりよい成長のためにどのような成果をあげているのか、また、どのような改善点が残されているのかを的確に把握していくことが大切である。

このような点から見て、目に見える形で授業の課題が浮かび上がってくる「授業評価」は有効であったと考える。

(資料11) 授業の評価を行うための「フィルター」

教師の手だてと子どもの変容フィルター							
学年		3学年		教科領域		総合的な学習の時間	
このフィルターは、授業における手だての有効性や子どもの変容の状況を明らかにし、今後の研修の充実を図る資料を作成するためのアンケートです。授業について、ありのままにお答えください。							
全体目標							目標の妥当性
気づき、考え、活動する子の育成							評定
学年・教科目標							5
自分の願いや思いを大切に、友達と協力して楽しく学習する児童の育成							4
授業を通してどんな子どもを育てたいか(本時で目指す子ども像)							3
見学や職業体験を通して主体的に調べる活動を行い、自分なりの表現でまとめることができる児童の育成							2
							1
手だての妥当性		評価の妥当性			子どもの変容		
具体的手だて	評定	評価の観点	評定	評価方法	評定	コメント	評定
1 (つかむ)地域の人の職業に関心を持つために、自分自身で名人を探す活動を行う。	5	安全に留意して、町の名人を積極的に探している。	5	児童の活動の観察やワークシートの内容から評価する。	5		5
	4		4		4		
	3		3		3		
	2		2		2		
	1		1		1		
2 (追究する1)必要な情報を得るための方法を考え体験させる。	5	集めたい情報を得るために、事前の連絡を行い、質問や調べることを明らかにして取材活動を行っている。	5	児童の活動の観察や、ワークシートの内容から評価する。	5		5
	4		4		4		
	3		3		3		
	2		2		2		
	1		1		1		
3 (追究する2)学校放送を利用し、まとめ方を理解させる。	5	集めた資料を有効に活用し、効果的なレイアウトを考えパンフレットを作成している。	5	児童の活動の観察や、できあがった作品から評価する。	5		5
	4		4		4		
	3		3		3		
	2		2		2		
	1		1		1		

(資料12)「つかむ」段階での授業評価



## イ 授業評価の試行例 D中学校

D中学校の数学科部会においては、学校全体の研修主題を受け、「学び合い鍛え合い励まし合う生徒」の育成を目指して研修を進めている。研究授業に当たり「支援くん2003」を試行した結果、手だて1と手だて3について、資料13、資料14のような結果が出た。手だて1は、課題をつかむ過程の手だてで、授業の導入として操作活動を取り入れたものである。参観者からは、「操作活動により、生徒の思考がしやすくなっていた」とのコメントもあり、生徒の活動を見ることで評価もしやすかったと思われる。また、手だて3は、まとめる過程の手だてである。おおむね良好な結果であるが、グラフやコメントなどから総合的に見ると、他の問題への活用やまとめの段階での評価の方法など、今後の改善点も明らかになってきた。

「支援くん2003」は、授業づくりにかかわる者が、共通理解を図りながら授業を検証し、さらなる改善を図るための資料提供になりうると考えられる。ただし、授業を評価する参観者の数が極端に少ない場合、資料の信頼度が低くなるので、研修主題を受けた代表授業等で活用されることで、より有効性を発揮できると考えられる。

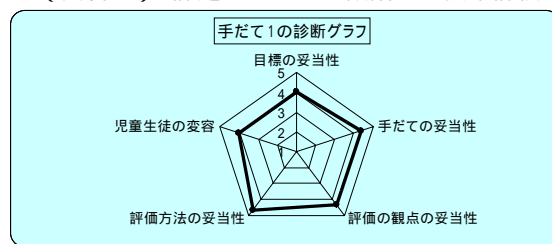
### おわりに

校内研修では、その運営全体について短いサイクルで振り返り、職員の意識や運営の問題点を把握し、早い段階で改善策を打ち出すことが、より充実した研修を行うために必要である。従来は、こうした研修の振り返りには、多くの労力と時間が必要であった。今回作成した「Plan診断」のための「診断くん2003」では、診断のために必要となる実時間を1時間程度に抑え、グラフなどを自動表示するよう工夫した。こうすることで研修の振り返りを容易にした。試行の結果、研修の実態が短時間で把握できることが明らかになった。これにより、今後どのような部分に力を注いでいけばよいか明確になり、次の実践への方向性を見出す有効な手段になることが分かった。また、診断の結果が学校の現状を反映するものになっているかどうかについては、4校の研修主任から「研修の問題点をよく反映している(2名)」「どちらかといえば反映している(2名)」という回答を得た。こうしたことから、「ステップアップシート」と組み合わせることで、研修のサイクルの循環を促し、校内研修の活性化を図る一つの方策となりうると考えられる。

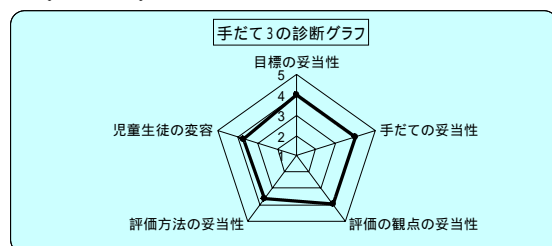
しかし、『診断くん2003』から生み出される資料をどのように分析し、活用するかについては、研修を推進する立場にある者が、他の視点からも学校における研修の実態を十分把握することが大切である。そして、資料と照らし合わせながら改善を図っていくことでより有効性が発揮されると思われる。

また、校内研修は、最終的には子どものよりよい変容につながるものでなくてはならない。授業の改善を支援することを目的とした『支援くん2003』では、研修主題を授業レベルにまで具体化するため、学年部会や教科部会等において「子どもたちのどのような姿を目指して、どのような手だてを用いて授業を実践していくのか」という点を明確にする「評価準備」を取り入れた。こうした共同作業が共通理解を促し、授業改善の視点が明確になり、授業改善の成果

(資料13)「課題をつかむ」段階での授業評価



(資料14)「まとめる」段階での授業評価



と課題がより明確になるのではないかと考えたからである。その結果、手だての有効性や評価の方法の妥当性などをグラフ化することによって改善点が明らかになることが分かった。

しかし、授業の評価をする者の人数によって、評価の信頼性が大きく変わってくるのが課題として残った。『支援くん2003』は、全職員で取り組む代表授業や多数の参観者が集まる公開授業等においては、授業改善の方向性がより明確になるものと考えられる。日常の授業実践において、より有効に働くようにするためには、今後さらなる改善を重ねていく必要があると思われる。

#### 研究協力校

伊勢崎市立三郷小学校 高崎市立倉賀野小学校  
伊勢崎市立第三中学校 榛名町立榛名中学校

#### 主な参考文献

- 佐藤次郎 櫻井延彦 有川達哉 斉藤貞雄 著  
『ビジョンガイドによる「目標による管理」』産能大学出版部（1999）  
平松 陽一 『教育研修の効果測定と評価のしかた』インターワーク出版（2001）  
牧 昌見 『学校経営マニュアル』  
教育開発研究所 『教職研修 学校経営評価の実践課題と対応』（1996）  
群馬県教育委員会 『群馬県小・中学校教育充実計画』（2000）  
群馬県教育委員会 『新ぐんま教育プラン』（2001）  
群馬県教育委員会 『学校教育の指針』（2002）  
群馬県教育研究所連盟 『学校における教育研究のすすめ方』  
福岡県教育研究所連盟 『新訂 校内研究のすすめ方』（1997）  
新潟県立教育センター 『校内研究ハンドブック』（1991）  
秋田県総合教育センター 『研究紀要 第27集』（1996）  
三重県総合教育センター 『学校評価の具体的手法』（2001）  
三重県総合教育センター 『学校自己評価実施の手引き』（2001）